



きんたろう倶楽部通信

7号

2006年4月23日
きんたろう倶楽部結成
2009年8月の会員数:784名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

2009年8月24日発行
きんたろう倶楽部事務局
〒930-0151 富山市古沢254番地
富山市ファミリーパーク内
TEL&FAX: 076-434-1316
URL: http://kintaroclub.net
E-mail: info@kintaroclub.net

私が生まれ育った京都の家の近くには大徳寺や上賀茂神社などがあって、歴史的な背景から近年は訪れる観光客も少なくはなく、とくに昨年からは今年にかけては「源氏物語千年紀」のイベントが催されたことから例年以上に多くの人々が訪れたと聞いている。しかし、家から歩いて僅か五分ほどのところにある紫式部の墓を訪れる人は少なかったという。紫式部が源氏物語と深い関わりを持っていることは誰もが知っているが、そこは寺の境内にある墓地ではなく、清楚ではあるが間口の狭い、奥行きが深いところにある小さな墓だけに余り宣伝されることもなかったからではないだろうか。いずれにしても京都に数多い社寺の庭には建立の行き届いたタケ林が造られていて、その楚々とした風情や静寂さが訪れる人達の心に安堵感を与えているのである。

今でこそ近隣には空き地もなくなり、個人の住宅で埋め尽くされているが、寺院以外でも住宅の扉越しに数々のタケやササを植栽している庭を垣間見ることが出来るのも京



タケ林の再生と人の協働を

富山県中央植物園

園長 内村悦三

今にして思い返せば戦後すぐの頃は生活の立て直しを計ろうとしても物資が乏しくて誰もが苦労したのであるが、それを救ってくれたのは竹だったのではありませんか。家の内外を見ても生活道具一切に始

いるのが各地でみられるのである。それもそのはずで、本来、手作りの品物は品質がよく、型崩れしにくいといっ好まれたものであるが、最近のように多くの商品がコンビニユリター制御下で機械化され

都ならではと思うことがある。そうした環境に囲まれて育ったからでもないが何時の間にかタケそのものが生活の糧を得る大部分を占めることとなっていたのである。いくなれば何も気づかない間に優に半世紀を過ごしていたのである。もって、食するもの、飾るもの、住むところのものなど、殆ど全てが竹製品だったといっても過言ではなかった。ところが原材料の生産地だったタケ林が昨今では手入れもされずに放置されてしまい、見ればも無残な姿をさらけ出して

て生産効率が高められ、生産コストが軽減されると、手作りで人件費のかかる製品は生産率も悪く、どうしても商品価格が高くなって、価格競争に勝てなくなってしまうからであり、また、生活の近代化、洋式化といったことも和風感覚を持つ竹製品が若者に受け入れられ難くなってしまったことにも関係ないとはいえないのである。ただ、これだけが竹材の需要を抑制している訳ではないが、だからといって放置しておけば年々タケの本数が増えてきて立入ることすら出来なくなってしまうのである。かつてタケが売れた時代は専門家が伐採し、搬出していたので林地の所有者も管理に特別苦労することはないが、このラインが断たれてしまっただけに広い面積の林地所有者にとっては、個人で管理することが出来なくなってしまうといえるのである。ましてや高齢化が進むと。しかしながら、タケを植物としての視点から取り上げてみると、従来からいわれられてきた水資源の貯留や土砂流出の阻止効果だけでなく、二酸化炭素の吸収源

「森林と人シンポジウム」

きんたろう倶楽部では、昨年に続き「森林と人シンポジウム」第2回を開催いたします。森と人とのかかわりの大切さについて、子どもたちの発表や、基調講演、パネルディスカッション「森についてわたしたちのできること」を開催いたします。入場無料です。ふるってご参加ください。問い合わせはきんたろう倶楽部事務局へ。

日時 11月23日(月・祝) 午後1時～午後4時
場所 富山国際会議場 3F メインホール

第1部 子どもたちの環境に対する発表会
第2部 基調講演 (株)インテック 中尾代表取締役会長
第3部 パネルディスカッション
(仮)「森についてわたしたちのできること」



きんたろう倶楽部 平成21年度通常総会報告

平成21年5月22日(金)午前10時から富山市ファミリーパーク自然体験センターで開催され、すべての議案が提案どおり可決、承認されました。

はじめに西頭徳三会長から、きんたろう倶楽部発足から3年が経過し、更に三井物産(株)からの助成金事業も2年目を迎え、「森を元気に、人を元気に、街を元気に」をスローガンに6つの行動ビジョンをもとに特色ある事業の展開に努め、創設の趣旨を生かして活動を推進したいので、会員はじめ皆様方の協力をお願いしたいと挨拶されました。

次に、三井物産(株)理事・北陸支店支店長 法貴文様から、来賓ご挨拶で、自然環境を維持するには多くの人々の協力が必要であるが、地球環境を守る、里山の地域を守ることに對して皆さんが活動されることは誠に尊いことであり、当社と共に一層活動に努力しようとの激励を頂きました。

議決事項
第1号議案「平成20年度事業報告及び収支決算について」
会員数789人、活動回数43回、参加者数1,792人、収支決算額17,620,977円

第2号議案「平成20年度末財産目録と貸借対照表」
資産(預金)4,743,085円(一般、積立金会計)

第3号議案「平成21年度事業計画及び収支予算について」
6事業を中心に活発な活動の推進を図る、収支予算額15,560,000円

第4号議案「特別顧問の委嘱について」北日本新聞社社長 河合 隆氏に委嘱

報告事項
第1号報告「役員選任の報告について」森づくり運営委員に酒井忠彦氏選任

その他 当面の活動予定の報告



▼今後の活動予定

- 竹たけ肥切返し作業と実証実験
- ファミリーパーク内
- 里山林整備 国際大学地内(9月12日・土)
- とやまの森づくりボランティアの集い
- 小矢部市論田地内(9月20日・日)
- 飛越源流の森づくり 飛騨市古川地内(10月中旬)
- 里山林整備 日立国際電気の森地内(10月・未定)
- みどりの里親の集い 南砺市福光地内(11月上旬)
- 里山林整備 割山天湖森地内(11月予定、富山市割山)
- 呉羽丘陵竹林整備 西金屋地内(11月・未定)
- 第2回きんたろう倶楽部シンポジウム
- 国際会議場(11月23日・月・祝)
- 第6回 森づくり講座(未定)
- 第7回 森づくり講座(未定)

▼編集後記

暖冬だった今年も夏もエルニーニョ現象の影響を強く受けているようで多雨、寡照となり梅雨明けも平年より遅れました。暖冬傾向は雪国にとて暮らしやすいのは本音ですが冬寒系などのバランスを考えると喜んでばかりもいられません。手入れが遅れた里山林が荒廃し、本来雪国などで生息しない動物などが北上し農林産物に被害を及ぼしています。また川の上流部においても森の手入れは遅れているようで、それはダムなどに溜まった流木などから容易に想像できます。荒れた里山を整備しようとして発足したきんたろう倶楽部では引き続きボランティアでもできる里山整備を積極的に進めたい、たとえ微力でも地球温暖化防止に貢献できるように会員一同楽しんで活動していきたいですね。(事務局松田記)

▼事務局からのお知らせ

今後竹たけの切返しを終えたら実証実験として花や作物などの成長度合いを実験しますのでモニターになっていただける方を募集します。また森づくり講座では北陸電力(株)環境部による流水等に関する出前講座を開催し、上流部の岐阜県(市)と連携して実地視察などを予定しています。こちらも参加者を募集いたします。詳細は今後の活動案内でお知らせします。